

発展する経済特区の街

深圳市は三十年前、人口三万人の漁村だった。経済特区に指定されたことで急発展し、現在は一二〇〇万人を超える中国有数の大都市に成長した。市民の平均年齢は二十八歳ともいわれ、市内は若者の活気にあふれている。市とはいえ、東京都と同じくらしい面積を持つ。気候は亜熱帯に属し、一月でも気温は十度を下回らず十月ごろまで夏のような暑さが

ホテルの1・2階に本校がある



一月でも気温は十度を下回らず十月ごろまで夏のような暑さが

香港と結ばれている深圳湾大橋



●中華人民共和国● **深圳**
日本人学校

続く。南国の花々やフルーツが豊富で、街路樹にマンゴーが植えられている。

市内には日本企業の支店や日本人が経営する現地企業があり、約四〇〇〇〇人の日本人が住んでいる。これまで補習校はあったが、日本人の子どもたちが安心して学べる場をと、商工会・政府・準備委員会の尽力で開校することができた。

現地の教育環境

中国の義務教育は小学校の六年間と中学校の三年間で、日本と変わらない。学区は広い範囲で決められていて、いくつかの学

大黒摩季さんといっしょに
素敵な校歌の発表



毎週水曜日に縦割りで行う
フレンズランチ



校の中から選択することができる。日本人学校以外にインターナショナルスクールが三校、韓国系の学校が一枚ある。

現地校は新年度が九月に始まり七月に終わる。学級定数は、学校によって違うが四十五人を超えており、教室は机とイスでいっぱいのところが多い。昼休みが二時間あり、この間自宅に帰り昼食・休憩をとる。

下校時刻は、小学校でも五時過ぎになることがある。宿題が多く、正規授業のあとに補習授業を行っている学校もあり、遅いときは八時ごろまで学校にいることもあるという。

開校から二年目、みんなが学校づくり

本校は昨年四月、中国国内で十三番目の日本人学校として開校した。児童生徒数三十六人でスタートし、二年目の今年は八十五人になった。教職員は、総勢十八人。現在はホテルを改築した仮校舎（小さいながら理科室・音楽室・家庭科室・保健室もある）だが、今後児童生徒数が増加することを見越して、現在市政府と建設予定地について協議を進めており、三年後に新校舎に移転する予定である。

学校づくりは試行錯誤の連続だが、小・中学生がワンフロアに在ること、少人数であること、グラウンド・体育館・プール等がないこと（要素としてはマイナスだが、

小学部4年から参加する委員会活動



ホテルのプールで水泳学習



修学旅行 広州領事館で総領事と面談



中国語学習 中国語で買い物



運動会
小学部3年から中学部2年で組体操

The Japanese School of Shenzhen

URL <http://www.jsszcn.com>

児童生徒数 小=71人 中=14人

子どもたちから

しんせん日本人学校は、ロング・昼休みで外に出て遊ぶのがすごく楽しいです。(小3)

小学一年から中学三年までの人といっしょに遊んだりおべんとうを食べるたてわりがあります。(小5)

みんなが個性豊かだにぎやかで楽しく勉強したいです。(中2)

ないからこそこできることを考えようとしていいる)など、現状をもとに一歩ずつ歩みはじめていいる。中学部の生徒を中心に自分たちの学校という意識が強く、よい学校にしようとい意的に行事や活動をつくり上げている。まさに子どもたちと教職員がいっしょになって学校づくりに取り組んでいる。本校の特色ある教育活動の一つに、異学年活動(フレンズ活動)がある。これは児童生徒が本校に編入する前の学校で多種多様な経験をしていいることをプラスと考え、学校全体で仲間づくりを行うことを目的に実践していいる。現在毎週水曜日にランチ・掃除・遊び等を実施していいる。全校児童生徒が皆お互いの名前がわかるという人間関係ができてきた。子どもたちがより学び合ひ、高め合ひことができるように、小学部でも一部に教科

担任制を取り入れていいる。また音楽・図工(美術)・技術家庭・体育は、異学年学習を取り入れていいる。この結果、子ども同士がとも仲のよいアットホームな学校になってきた。外国語は中国語・英語を週一時間ずつ、学習したことを活用できることを目指し実施していいる。また歩き出したばかりの学校だが、子どもたちは毎日楽しく過こし、学校と共に日々成長していいる。なお、本校の校歌を大黒摩季さんがつくってくださり、ホームページで聞くことができる。

(二〇〇九年五月現在)



地元の特設教育学校との交流